

外為マンズレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2017/05/02

オセアニア勢の巻き返しはあるか

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	➡	金融政策は当面据え置きの公算 予想レンジ: 81.500 ~ 88.500 円	2 - 3
NZドル/円	➡	反発局面に入れるか 予想レンジ: 76.300 ~ 79.500 円	4 - 5
ランド/円	➡	格下げショック一服 予想レンジ: 8.000 ~ 8.700 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



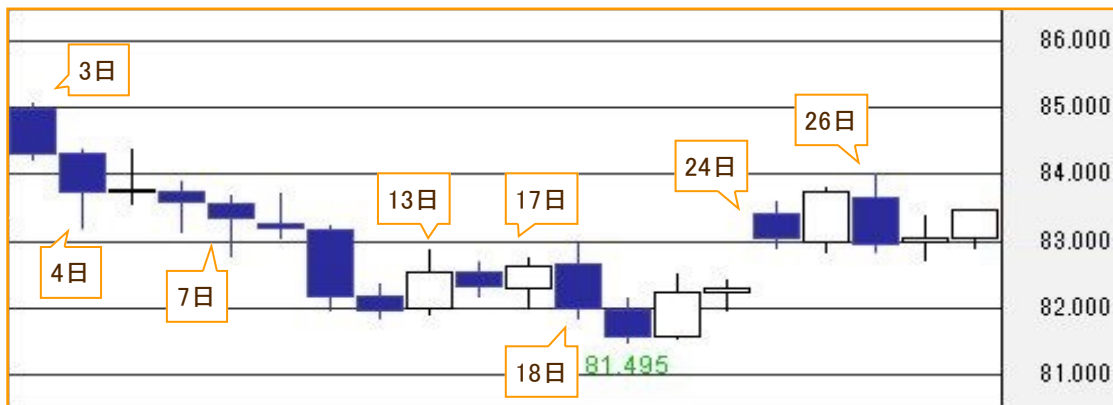
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 4月の推移

AUD/JPY

4月の豪ドル/円は、81.495～85.080円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.8%下落(豪ドル安・円高)した。上中旬は、北朝鮮などの「地政学リスク」がくすぶる中、豪州の主要輸出品である鉄鉱石や石炭などの価格下落も重しとなり、下落基調を強めた。19日には昨年11月22日以来の安値となる81.495円まで下値を切り下げる場面もあった。しかし、23日の仏大統領選(反ユーロのルペン候補が2位で決選投票に進んだものの)や25日の北朝鮮軍創設記念日を無難に通過(北朝鮮領内で軍事演習が行われたものの)したことから、リスク回避ムードが緩和すると水準訂正の動きが強まり26日には84.00円前後まで反発した。もっとも、豪1-3月のインフレ率が予想に届かず将来的な追加利下げ観測が拭えなかったため、終盤の伸びはやや力強さを欠いた。



四本値

OPEN	85.001
HIGH	85.080
LOW	81.495
CLOSE	83.493

3日	豪2月小売売上高が前月比-0.1%と予想(+0.3%)に反して減少した事を受けて豪ドル売りが活発化。豪2月住宅建設許可は前月比+8.3%と予想(-1.0%)を大幅に上回ったが、豪ドル売りは止まらなかった。その後、ロシア・サンクトペテルブルクで地下鉄爆発事故が発生した事などを受けて米国株が下落する中、84円台前半まで続落した。
4日	豪2月貿易収支が35.74億豪ドルの黒字(予想: 19.00億豪ドルの黒字)となった事を受けて小幅に値を上げたが、豪準備銀行(RBA)理事会後に反落。RBAが政策金利の据え置き(1.50%)と同時に発表した声明は前月と大きな違いはなかったが、「労働市場のいくつかの指標が最近軟化している」「失業率はやや上昇し、雇用の伸びは控えめ」などと、雇用情勢の判断をやや弱めた事が豪ドル売り材料となった。
7日	米軍がシリアの目標物(空港施設)に向けてトマホークミサイルを発射したとの報道を受けて、リスク回避の円買いが活発化。豪ドル/円は一時83円台を割り込んだが、日本株が下げ渋ると83円台半ばに持ち直した。
13日	豪3月雇用統計は、失業率こそ事前予想通りの5.9%だったが、就業者数が6.09万人増と予想(2.00万人増)を大幅に上回った。さらに、中国3月貿易収支が239.3億ドルの黒字(予想: 125.0億ドルの黒字)となった事もあって、豪ドルが一段高となった。
17日	中国1-3月期国内総生産(GDP)は前年比+6.9%と市場予想および前期(いずれも+6.8%)を上回る伸びとなった。また、中国3月鉱工業生産が前年比+7.6%、中国3月小売売上高が前年比+10.9%と、いずれも予想(+6.3%、+9.7%)を上回った。これらを受けて豪ドル/円は82.00円付近から持ち直した。その後、ムニューシン米財務長官が「赤字よりも経済成長を重視」「年内の税制改革実施をなお予想」などと発言した事を受けて米国株が上昇すると82.70円台まで上昇した。
18日	RBA理事会の議事録が公表され、「労働・住宅市場、今後数ヶ月に渡り『注視する事が正当化される』『労働市場は予想よりやや弱い、賃金の伸びを抑制』『インフレ率は17年に2%を上回るが、コアインフレの伸びはより緩やかに』」などが明らかとなった。高く寄り付いた日経平均の上げ幅縮小や、鉄鉱石価格の急落も重石となり、豪ドルは弱含んだ。
24日	仏大統領選(第1回投票)の出口調査で、中道・独立系マクロン候補と極右・国民戦線党首ルペン候補の勝ち抜けがほぼ確実となり、反EU候補同士(ルペンVSメランション)の決選投票が避けられた事などから、欧州政治リスクへの懸念が後退。ユーロ/円の上昇につれて豪ドル/円も前週末の終値から1円以上高い水準で取引が始まった。
26日	豪1-3月期消費者物価指数が前期比+0.5%、前年比+2.1%となり、いずれも市場予想(+0.6%、+2.2%)を下回った事を受けて豪ドル売りが強まった。なお、RBAが重視する基調インフレ率は前年比+1.8%と予想通りに前期の+1.5%から加速したが、RBAのインフレターゲット(2-3%)下限には届かなかった。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	18988.00
HIGH	19289.43
LOW	18224.68
CLOSE	19196.74

NYダウ平均

OPEN	20665.17
HIGH	21070.90
LOW	20379.55
CLOSE	20940.51

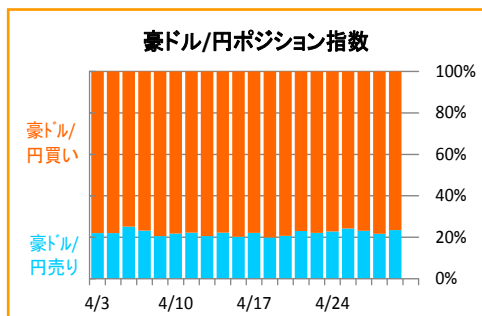
上海総合指数

OPEN	3235.660
HIGH	3295.187
LOW	3097.333
CLOSE	3154.658

豪10年債利回

OPEN	2.688%
HIGH	2.691%
LOW	2.435%
CLOSE	2.575%

4月のポジション動向



5月の豪州・中国の注目材料

- ・4月中国/財新製造業PMI(2日)
- ・RBA政策金利発表(2日)
- ・3月豪貿易収支(4日)
- ・RBA四半期金融政策報告(5日)
- ・4月中国貿易収支(8日)
- ・3月豪住宅建設許可件数(8日)
- ・3月豪小売売上高(9日)
- ・4月中国消費者物価指数(10日)
- ・4月中国鉱工業生産(15日)
- ・RBA議事録(16日)
- ・豪4月雇用統計(18日)
- ・4月豪住宅建設許可(30日)
- ・5月中国製造業PMI(31日)

5月の見通し

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

豪準備銀行(RBA)が5月2日に発表した最新の声明には、今回も「政策スタンスを変更しないことが経済の持続可能な成長と、時間をかけてインフレ目標を達成することに一致すると判断」との一文が盛り込まれた。RBAの金融政策は当面変更なしと見るのが妥当だろう。豪金利デリバティブ市場でも、今年12月まで現状維持(政策金利1.50%)が続く確率は89%となっている。したがって、当面の豪ドルは金融政策を手がかり材料にしにくく、外部要因に左右されやすい相場環境となりそうだ。言い換えれば、投資家のリスク選好度合いが5月の豪ドル/円相場のカギを握る公算が大きいと言う事になる。世界の株価や資源価格(特に豪州の主要輸出品である鉄鉱石や石炭)につれた動きが続きそうだ。足元のリスクオン相場の継続性という観点からは、北朝鮮などの地政学リスクにも目配りが必要だろう。テクニカル面では、週足の一目均衡表の雲上限(執筆時81.529円)と52週移動平均線(同81.466円)が重なる81円台半ばがサポートになると見られる一方、2月高値の88.177円付近は戻り売りのターゲットとして意識されそうだ。(神田)

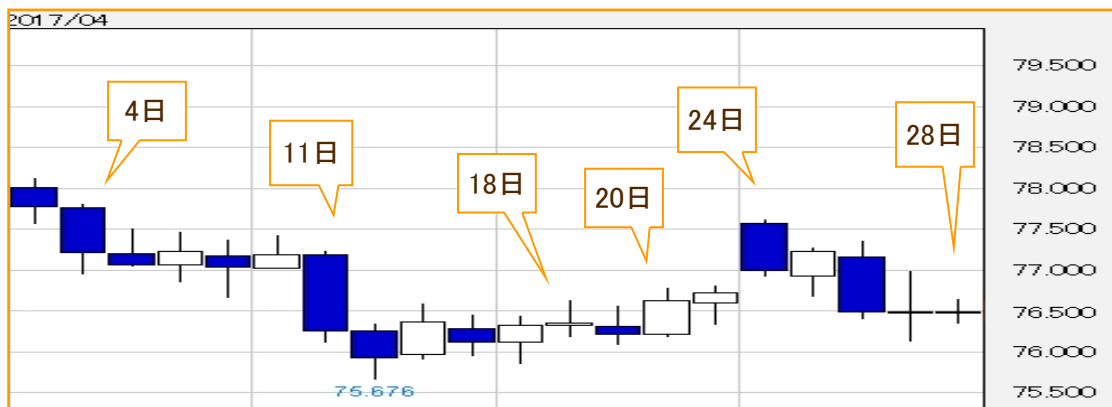
(予想レンジ: 81.500-88.500円)

NZドル/円 4月の推移

NZD/JPY

4月のNZドル/円相場は75.676～78.119円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.0%の下落(NZドル安・円高)となった。

シリア情勢や北朝鮮情勢といった地政学的リスクが高まる中、軟調に推移すると、12日に2016年11月以来の安値となる、75.676円まで下落。その後、23日の仏大統領選を無難に消化した事で、リスク回避の動きが和らぐと一時77円台半ばまで値を上げたが、26日に「米政府が北米自由貿易協定(NAFTA)離脱の大統領令を検討」と報じられるなど、トランプ米政権による保護貿易主義への警戒から伸び悩んだ。



四本値

OPEN	78.010
HIGH	78.119
LOW	75.676
CLOSE	76.499

4日	NZ乳業大手フォンテラが実施した乳製品入札で、GDT指数が前回比+1.6%となった。
11日	北朝鮮外務省が「(米空母の朝鮮半島近くへの派遣に対し)強力な武力で防衛する」と述べたほか、トランプ米大統領が「中国の協力がなくても北朝鮮問題を解決する準備がある」と発言した事などから地政学的リスクが意識される中、ドル売り・円買いが優勢となった。その後、「モスクワのヴヌーコヴォ国際空港から黒煙」との報道(後に付近の草地やごみが燃えているだけと判明)をきっかけにリスク回避の動きが強まった。これを受けて円全面高の展開となった。
18日	NZ乳業大手フォンテラが実施した乳製品入札で、GDT指数が前回比+3.1%となった。
20日	NZ1-3月期消費者物価指数が前期比+1.0%、前年比+2.3%と予想(+0.8%、+2.0%)を上回った。前年比は2011年6-9月期以来の高い伸びとなった。これを受けてNZドル買いが強まった。
24日	23日に行われた仏大統領選の結果が判明し、反EU候補による決選投票が回避された。これを受けてリスク回避の動きが和らぎ、円売りが優勢となった。
28日	NZ3月貿易収支は、3.32億NZドルの黒字(予想:+3.70億NZドルの黒字)であった。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	18988.00
HIGH	19289.43
LOW	18224.68
CLOSE	19196.74

NYダウ平均

OPEN	20665.17
HIGH	21070.90
LOW	20379.55
CLOSE	20940.51

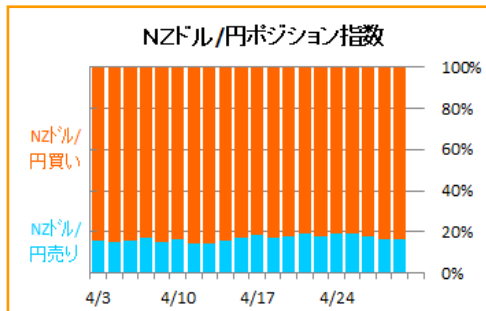
上海総合指数

OPEN	3235.660
HIGH	3295.187
LOW	3097.334
CLOSE	3154.658

NZ10年債利回

OPEN	3.178%
HIGH	3.178%
LOW	2.908%
CLOSE	3.043%

4月のポジション動向



5月のNZの注目材料

- ・NZフォンテラ入札(2日、16日)
- ・1-3月期NZ生産者物価指数 (17日)
- ・1-3月期NZ失業率(3日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート (11日)
- ・4月NZ貿易収支(24日)
- ・4月NZ住宅建設許可(30日)
- ・4月NZ企業景況感(PMI、12日)
- ・1-3月期NZ小売売上高指数(15日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

5月の見通し

NZドル/円は、先月12日に2016年11月以来の安値となる75.676円まで下落するも、その後は下げ渋り。24日に約2カ月ぶりに引値で20日線を回復しており、1月27日高値(83.791円)を基点とする下落トレンドが終了する可能性が出てきた。目先は24日の上伸を阻んだ200日移動平均線(執筆時77.701円)と、1月27日と2月16日の高値を結ぶレジスタンスライン(同、78.053円)がポイントである。これらを突破できれば上値余地が拡大する公算であり、75日線(同、79.537円)に向けた一段高が見えてくるだろう。

なお、今月のRBNZ理事会では、政策金利の据え置き(1.75%)がコンセンサスになっている。声明文についても、前回3月に続いて目新しい内容が示されなければ、NZドル相場への影響は限られると見る。(川畑)

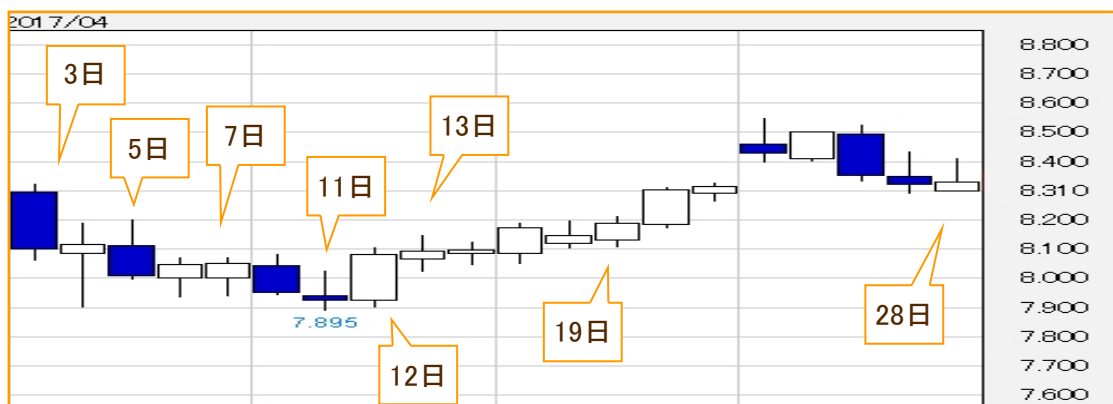
(予想レンジ: 76.300~79.500円)

ZAR/JPY

ランド/円 4月の推移

4月のランド/円相場は7.895～8.548円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.4%の小幅上昇（ランド高・円安）となった。

前月のゴードン財務相更迭の影響から、格付け会社S&Pとフィッチが相次いで同国の格付けを投機的水準に引き下げた（ムーディーズは7日の発表予定を先送りすると共に、格下げ方向で見直しを発表）。これらを受けて11日に7.895円まで下落。しかし、その後はギガバ財務相が従来の財政規律の維持を発表したこと等から、緩やかに持ち直した。仏大統領選第1回投票を波乱なく通過したことでリスク回避の動きが和らぐと、24日に約1カ月ぶり高値となる8.548円まで上昇した。ただ、26日に「米政府が北米自由貿易協定（NAFTA）離脱の大統領令を検討」と報じられるなど、トランプ米政権による保護貿易主義への警戒から、月末にかけて伸び悩んだ。



四本値

OPEN	8.298
HIGH	8.548
LOW	7.895
CLOSE	8.330

3日	格付け会社S&Pは南アの外貨建て格付けについて、投機的等級への引き下げ（BBB→BB+）を発表。これを嫌気してランド売りが強まった。また、S&Pは声明で政治リスクが年内も高止まりするほか、「現在想定する以上に、財政や成長に関する成果をむしろ恐ろしい政策シフトの公算が大きい」と指摘した。
5日	「南アフリカのズマ大統領は与党アフリカ民族会議（ANC）の会合で辞任要求を退けた」との報道を嫌気して、ランド売りが優勢となった。
7日	格付け会社フィッチは、南アの格付けについて、投機的等級への引き下げ（BBB→BB-）を発表した。
11日	南ア最高裁が、ズマ大統領不信任案を秘密投票とするかどうか審理する方針を示した（野党は秘密投票となれば不信任案が可決される公算が大きくなると主張）。これを受けてランドが買われた。
12日	南アの与党アフリカ民族会議（ANC）指導者の「ズマ大統領の今後について議論するために緊急会議を求める」との発言を受け、大統領が退陣する可能性が浮上。ギガバ新財務相が2017年予算に盛り込まれた財政安定化計画を堅持すると発言し、財政規律が緩むとの懸念払拭に努めたことも追い風となり、ランドが買われた。なお、12月南ア小売売上高は前年比-1.7%（予想：-1.8%）と2カ月連続でマイナスとなった。
13日	ギガバ財務相が「3社目の格付け会社が、同国を投機的（ジャンク）等級に格下げする事がないよう取り組んでいく」などと発言。これを受けてランド/円はやや値を上げた。
19日	南ア3月消費者物価指数は前年比+6.1%と予想（+6.3%）を下回った。これを受け、南ア準備銀行（SARB）が冴えない同国経済の中で利上げに踏み切る可能性が後退した事から、ランドが買われた。
28日	南ア3月貿易収支は114億ランドの黒字（予想：62億ランドの黒字）であった。

日経平均

OPEN	18988.00
HIGH	19289.43
LOW	18224.68
CLOSE	19196.74

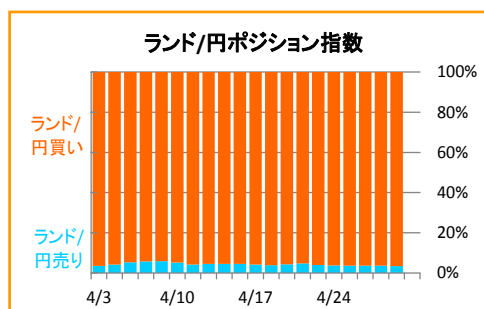
NYダウ平均

OPEN	20665.17
HIGH	21070.90
LOW	20379.55
CLOSE	20940.51

N Y 金

OPEN	1251.90
HIGH	1297.40
LOW	1245.40
CLOSE	1268.30

4月のポジション動向



5月の南アフリカの注目材料

- ・1-3月期南ア失業率(9日)
- ・3月南ア小売売上高(17日)
- ・4月南ア消費者物価指数(24日)
- ・4月南ア生産者物価指数(25日)
- ・SARB政策金利発表(25日)
- ・4月南ア貿易収支(31日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

5月の見通し

ランド/円相場は先月24日に8.548円まで上昇するも、その後は伸び悩み。3月高値(8.963円)~4月安値(7.895円)の下げ幅61.8%戻し(8.555円)が重い。ここから更に買い進めるには、南ア国内から「それなり」のランド買い材料が欲しいところである。万一ズマ大統領が辞任すればランドが買われる公算が大きい。執筆時点(5月2日)までにズマ大統領を辞任に持ち込む目立った動きが見られない。今年12月のアフリカ民族会議(ANC)総選挙を前にその可能性は小さいだろう。ギガバ財務相の就任1ヶ月の動きを見ると市場安定に努めるべく動いてはいるが、依然として実力は未知数である。今後の政策の実効性を見守る事となりそう。また、南ア国内を見ても、小売売上高が2カ月連続で減少となるなど冴えない経済状況が続いている。ランド買いの材料が見当たらない中、更なる上伸は容易ではなさそう。

なお、今月の金融政策発表について、政策金利の据え置き(7.00%)がコンセンサスとなっている。低迷する南ア経済に対処すべく利下げに踏み切るためには、少なくとも24日発表の南ア4月消費者物価指数が中銀目標(年3-6%)に収まる必要があるだろう。(川畑)

(予想レンジ: 8.000~8.700円)